浜中町立茶内小学校「学校だより」

THE　茶内小　TIMES

令和５年（2023年）１月10日発行　VOL 41

学びの達人になる

浜中町立茶内小学校長　冨　田　直　樹

前号で、「大人の学び」、社会人として成長するためには、何をすべきかということで、立教大学教授の中原淳氏が示した「大人の学びを促す具体的な７つの行動」を紹介しました。私たちは、この「７つの行動」に、どのように取り組むのでしょうか。1985年に永世棋聖の称号を贈られた棋士の米長邦雄氏と、現在も報道番組等で活躍されているジャーナリストの池上彰氏の「行動」を紹介します。

【米長邦雄氏】

米長氏は、40代半ばのころ、20代の若手棋士に勝てない時期があり、２年間、何のタイトル戦にもからむことができませんでした。なぜ若手に勝てないのか、その理由をある若手棋士に率直に尋ねます。その若手棋士は、米長氏の得意技を全部調べていて、対策を立てていることを伝えます。そして、若手に勝ちたいのなら、自分の得意技を捨てることを助言します。米長氏は、このことに納得し、若手棋士に一から将棋を教えてもらうことにします。これは、「行動⑤フィードバックを取りに行く」ことの実践です。また、米長氏は、自宅近くに棋士たちが研究会をできる場をつくり開放します。これは、「行動⑥場をつくる」に当たります。この研究会は「米長道場」と呼ばれ、佐藤康光氏や羽生善治氏、森内俊之氏など、次代の将棋界を背負って立つ多くの棋士を輩出しています。

【池上彰氏】

「行動④越境する」に該当するのは、池上氏です。池上氏はＮＨＫ時代、解説委員になることを夢見ていました。異動希望先に「解説委員希望」と書いたある年のこと、廊下で解説委員長に呼び止められ、専門分野をもっていないことを理由に、解説委員にはなれなと伝えられます。著書「知の越境法」に「ＮＨＫでの人生設計が潰えた瞬間でした」と綴っています。しかし、様々な現場を経験し、一つの専門分野がなかったこと、社会部記者としてのキャリアの後、キャスターとして、首都圏ニュースや週刊こどもニュースを経験したことが、あの分かりやすい「池上解説」につながっていきます。普段慣れ親しんでいる場所、自分が詳しい分野にずっと安住していたら、「池上解説」は生まれていないと思います。

前職のとき、とても魅力的な村の教育行政を進めている教育長に出会いました。その教育長は、書籍あるいは教育委員会外（民間の勉強会や先進事例視察など）で情報を得て、自身の教育行政について見つめ直していました。また、部下である教育委員会職員の話やアイディアをよく聞くことで、自身のフィードバックにしていました。村長部局の職員などからの情報も大切にしていました。しばしば学校に出掛けていって、校長と話したり、授業を参観したりして、学校の問題や課題、そして村の教育ビジョンを具体的に語っていました。魅力的な校長や教頭、教員についても近い印象があります。校内研修に積極的に関わったり、自己の課題を追究したり、他校の公開研究会や教育局等の研修などにも出掛けたりしています。また、趣味や旅行などで見聞や視野を広げています。

2023年が始まりました。私を含めて教職員の皆さん、そして、保護者や地域の皆さんはどんな大人になりたいでしょうか。「７つの行動」をヒントに考えてみませんか。